

平成27年度第1回京都市政策評価委員会 議事録

日 時：平成27年12月10日（木）午前10時～午前11時40分

場 所：職員会館かもがわ第5会議室

出席者：京都市政策評価委員会委員

窪田委員長，風間副委員長，赤川委員，菅原委員，山田委員
事務局

山本市長公室長，太田政策調査課長，瀨邊政策調査係長，安藤主任

1 開会

事務局

ただ今から，平成27年度第1回政策評価委員会を始めさせていただきます。
開催に当たり，窪田委員長から御挨拶をいただきたい。

窪田委員長

12月のお忙しい中，お集まりいただき感謝申し上げます。

第1回目の政策評価委員会では，今年度の政策評価結果についての報告や，
平成28年度政策評価の実施に向けた検討を行ってまいりたい。

今年は，「地方創生」が大きなテーマとなった。「地方創生」と「行政評
価」との関わりだが，地方創生は「KPI」という業績指標を設定し，評
価を行いながら実施することになっている。行政評価は，日本の1,70
0市町村のうち，約1,000の市町村が実施し，約700の市町村は実
施していないと言われているが，これまで行政評価を行っていなかった市
町村も，地方創生では業績測定を行い，評価を実施することになる。

京都市の政策評価制度は，業績測定を適切に実施している例として，十
分に参考にされうるものであると考えている。

夏休みに論文を執筆するため，院生と近畿二府五県全ての市町村を対象
に，行政評価を導入しているか，また，どのような手法で実施しているか
を調査したが，半分以下の市町村でしか，業績測定手法を実施しておらず，
考えていたより少なかった。そのような中で，業績測定という手法を使い
こなしているというのは，全国的にも注目すべき事例であり，引き続きク
オリティを保っていけるよう委員会としても見守り，支援していきたい。
委員の皆様におかれては，様々な御意見をいただければありがたい。

2 議事

(1) 平成27年度政策評価の流れ

窪田委員長

議事1「平成27年度政策評価の流れ」について事務局から説明をお願い
する。

事務局

【資料2（平成27年度政策評価の流れ）により説明】

窪田委員長

ただ今の説明について、何か御質問や御意見等があるか。

山田委員

予算編成の段階で、政策評価結果は活用されているということか。

事務局

そのとおりである。

予算は社会状況や先ほど窪田委員長の挨拶にもあった地方創生など、様々な要素を勘案して編成される。政策評価はその要素の一つである。

窪田委員長

事務事業評価は、評価結果を受けて予算を増減したことを言いやすいが、施策や政策はそう変わるものではないため、活用されているという実感が得にくい。

風間副委員長

財政当局が少しでも政策評価結果を念頭においていれば、予算編成に生かされると思う。

（2）平成27年度政策評価結果及び政策評価の改善状況について

窪田委員長

議事2「平成27年度政策評価結果及び政策結果の改善状況」について事務局から説明をお願いします。

事務局

【資料2（平成27年度 政策評価結果）、資料3（平成27年度政策評価の改善状況）、資料4（追加・見直しを行った客観指標）により説明】

窪田委員長

ただ今の説明について、何か御質問や御意見等はあるか。

菅原委員

資料4の国際化の「コンベンション開催件数の世界順位」のことだが、世界順位はどこが出しているのか。毎年出しているのか

事務局

国際会議協会（I C C A）が「国際会議開催統計」を毎年発表している。

風間副委員長

京都市は何位か。目標とする順位は。

事務局

平成26年で54位。目標は、平成32年までに世界35位である。
国内では東京が1位で、京都市は2位である。

菅原委員

観光客は多いが、M I C Eが少ない。世界で20位にはなってもらいたい。M I C Eが増えると観光消費額も上がってくる。

事務局

国際会議は必ず宿泊していただけるし、宿泊日数も長い。東京オリンピック・パラリンピックに向けて、様々なプレイベントが予定されており、国際会館の多目的ホールも2、500人規模に拡充整備される予定である。東京オリンピック・パラリンピックに向けて、さらにM I C Eの環境が良くなっていく。

菅原委員

スポーツだが、「スポーツ施設の利用件数」は出ているが、利用者の特性が分かればなお良い。東京オリンピック・パラリンピックに向けてスポーツに力を入れていかれると思うが、市民にアンケート調査を行い、年代や男女比、どのようなスポーツをされているかや、充実して欲しいことなどが分かれば、スポーツ施策に生かせるのではないか。

事務局

市民スポーツ振興室という部署が、年1回京都マラソンの際にスポーツに関するアンケートを実施している。また、現在市民スポーツ振興計画の見直しを行っており、その際、市民にスポーツに関するアンケートを実施している。

窪田委員長

利用者の特性は、目標にはしにくいかもしれない。ただ、各局で事業を考えていく上では大事な視点である。

風間副委員長

施策0701の「概要」には「年齢や個性、環境に応じて」と記載され

ている。「スポーツ施設の利用件数」だけでは、「年齢や個性、環境に応じて」いるかは分からないため、多様性に対応するような指標が設定できればおもしろい。

赤川委員

京都市の「地域体育館」など、使いたくても使えないという状況がある。土曜日や日曜日は人気が集中するため、抽選がほとんど当たらない。確実に「スポーツ施設の利用件数」の目標値以上の需要があると思う。

風間副委員長

市民スポーツ振興室は、施設整備も担当しているのか。

事務局

そのとおり。

風間副委員長

更に施設整備に取り組んでいただきたい。

山田委員

分野別計画などを策定する際は、政策評価や市民生活実感調査は活用されているのか。

事務局

計画策定に活用されている。計画によっては、市民生活実感調査を計画の目標値に設定しているものもある。

窪田委員長

現在の基本計画を策定した際にも参考にされた。

山田委員

市民生活実感評価が低い、客観指標評価が高いという施策や政策はあるのか。

窪田委員長

施策0302は、客観指標評価がa、市民生活実感評価がdと、評価に差がある。

山田委員

市民生活実感評価は高いが、客観指標評価は低い評価となっている事例はあるか。

事務局

例えば施策2602は、客観指標cになっている一方、市民生活実感はaである。

窪田委員長

他にも施策「0601」は、客観指標評価はeだが、市民生活実感評価はbとなっている。

客観指標評価と市民生活実感評価に差が出ることは、必ずしも問題ではないが、原因を調査・検討した方が良いのは確か。

風間副委員長

客観指標評価がa、市民生活実感評価がdなど、客観指標評価が高い場合は、指標を再検討した方が良いかもしれない。少なくとも、原因を分析すべき。

窪田委員長

スポーツなど、ニーズはあるが政策重要度は低いというものも注目すべき点である。

当然だが、客観指標評価も市民生活実感評価もどちらも良い方が良い。どちらも評価が上がるようにしないといけないが、市民の実感がおかしいとは言えないため、客観指標の方が再検討の余地がある場合が多いであろう。

客観指標評価と市民生活実感評価に差があることが必ずしも悪いわけではないので、検討すべきシグナルと考えよう。

赤川委員

歩くまちで、放置自転車の目標台数を「0」にされているが、達成できる数値なのか。

風間副委員長

「0」は達成できないような気がする。現実的に達成できる数値の方が良いのではないか。

事務局

昨年度は放置自転車の台数が、390台まで減っており、それを踏まえて、目標値を「0」とした。

風間副委員長

放置自転車の台数が減り、放置自転車に対応する体制が縮小していくと、発見されない放置自転車も出てくると思う。それは指標に表れない。何に

せよ、「0」を達成するのは困難である。

事務局

減っていることは確か。歩道への駐輪場設置など、様々な手法を使って、駐輪場を作っている。

窪田委員長

北大路駅で自転車の利用マナーの啓発をしていると、意外と放置自転車は少ない。

四条界わいでも、2、30年前は、駅に駐輪されていたが、最近はそれが憚られる雰囲気になってきた。

風間副委員長

放置自転車の台数が300台まで減っているのであれば、放置自転車対策としては一段落した感じがする。目標値を「0」にするのではなく、他の指標を設けるべきではないか。

窪田委員長

冊子「政策評価結果」について、御意見等はあるか。

赤川委員長

評価が上がった「観光」についてだが、外国人のマナー問題や市内のホテルが取れないことが、全国でも取り上げられるほど大きな課題となっている。このようなマイナス部分は評価に表れない。外国人宿泊客数や入洛観光客が増えたのは確かにプラスだが、市民はマイナスの実感も持っていると思う。

窪田委員長

計画に弊害を減らすという記述がないため、評価には出てこない。市民生活実感調査ではマイナス部分が表れる可能性があるが、マイナス部分はこの評価制度ではうまくキャッチできない情報である。

事務局

ホームページで公開しているが、自由記述では外国人観光客や修学旅行生のマナーの悪さが目に付くというような意見も出ている。

また、市民生活実感調査の、「京都は、市民にとってくらしやすい観光都市である。」という設問では、観光のマイナス部分も表れてくる。

赤川委員

四条通のバス待ちや渋滞の問題は、全国ニュースにもなっている。

この問題も評価制度で表せれば良いと思う。

風間副委員長

政策評価制度に内在する問題かもしれないが、良い方向に目標を立てるため、反作用として悪いことが起こった時は、それが指標に出てこない。

窪田委員長

政策評価制度は全政策・施策を自己評価できるようある程度割り切っているため、施策に付随する弊害などが表れない。観光客が増えた原因も、市の政策が全てではない。

本来は京都市の政策の結果としてどのくらい観光客が増えたかが分かれば良いが、そのためには、調査と評価のコストが掛かり過ぎるので、制度としてある程度割り切っている。その代わりに、全政策・施策について情報がある。

ただ、観光政策などについては、指標には表れないマイナス部分があるという御指摘は重要なことである。

事務局

「歩くまち」の総合評価はB評価となっているが、市民生活実感調査の「まちなかや観光地において、自動車による渋滞が減っている。」という設問で、5割を超える市民が否定的な回答をされているところに、四条通の問題が表れていると考えられる。ただ、客観指標において、地下鉄・市バスの利便性向上や、自転車の放置台数が減ったことから、総合評価はB評価となった。

この秋も様々な啓発等を行い、四条通は例年と変わらない状況にまでなっている。歩道拡幅により、ベビーカーを押して歩きやすくなったなど、良い部分も見ていただきたい。

窪田委員長

今後、評価制度の発展の中で、評価結果の悪い政策・施策について、集中的に原因調査を行うことなどがあっても良いと思う。

国の評価制度でも、司法改革やグローバル教育など、テーマを決めた評価を一定実施しているところであり、アカウントビリティという観点でも良いと思う。

そういう取り組みも、費用が掛からない形でできれば。統一フォーマットで、市民も見られる調査レポートのようなものができれば良いと期待している。

風間副委員長

評価が下がった政策・施策についての説明は、現在のもので良いと思

っている。しっかりと原因分析と今後の方向性を記載してあり、分かりやすい。これは評価したい。

ただ、平成の京町家もそうだが、評価が低い時の対策がほとんど「啓発」である。啓発はもちろん重要だが、もう少し直接的に効果があるような対策があると良い。浸透していないものを浸透させるのは難しい。そのため、もう少し具体的に効果が出るような事業を行う必要があると思う。

また、施策2401は総合評価がずっとDだが、客観指標である「平成の京町家累計認定戸数」の目標値を見直す必要があるのではないか。

窪田委員長

平成の京町家はコンセプトとしては良いが、建設費用も高い。指標というより、事業をそのものを見直ししないと厳しいのではないか。

広報の問題なのか費用の問題なのか。民間の住宅業者に聞き取りを行い、お客さんの反応や何がネックになっているか調査をした方が良い。

事務局

京都駅の近くの「KYOMO」で、民間の住宅業者とタイアップして、平成の京町家の住宅展示をしている。

現在住宅マスタープランという分野別計画の見直し中であり、目標値も検討中である。

菅原委員

平成の京町家は、元々ある町家を改修するのか、新しく京町家風の家を建てるのか。

窪田委員長

既存の町家の改修ではなく、見かけも含め、京町家の機能を取り入れた家である。

赤川委員

普通の住宅より費用が掛かるのか。

事務局

地元の木材を使用することなども要件に入っており、費用が掛かるようだ。

菅原委員

補助金制度はないのか。

事務局

制度はあるが、土地が限られている中、広い玄関スペースや通り庭などの設置が要件となっていることも、平成の京町家普及のハードルとなっているようだ。

窪田委員長

基本的には、施策の内容までは議論しないが、平成の京町家については、施策のあり方についても意見が出たということでまとめたい。その他に意見はあるか。

山田委員

多くの評価票の今後の方針に、広報・啓発をより一層図ると記載されている。広報によって、市民実感は大きく変わると思うが、施策を実施するに当たり、どのような広報手段が取られているのか。

事務局

平成の京町家の例でいくと、パンフレットを作成し、住宅業者に配付するような広報の仕方もあるし、市民一般に広く周知するような広報もある。ケースバイケースで、広報担当者と相談しながらより効果的な手法を考えて広報を行っている。

窪田委員長

評価が悪い政策や施策の中には、本当に広報の問題なのかと思うものがあるが、こういう議論ができるのも、原因と対策がしっかり記載されるようになったためであり、政策評価制度としては前進している。

(3) 市民意見の受付状況について

窪田委員長

議事3「市民意見の受付状況」について事務局から説明をお願いします。

事務局

【資料5（市民意見の受付状況）により説明】

窪田委員長

意見が何も無いのは寂しい。

風間副委員長

ワークショップのようなことができれば、様々な意見が出ておもしろいと思うが、この枠組みだと厳しい。

窪田委員長

市民を無作為抽出してのワークショップなどもあるかもしれない。

(4) 平成28年度政策評価の実施に向けて

窪田委員長

議事4「平成28年度政策評価の実施に向けて」について事務局から説明をお願いします。

事務局

【資料6（平成28年度政策評価の実施に向けて）により説明】

窪田委員長

ただ今の説明について、何か御質問や御意見等はあるか。

菅原委員

マトリックスの見せ方というのは、ホームページ上のことか。

事務局

ホームページもだが、冊子「政策評価結果」でも前年度からの動きを記載したい。

風間副委員長

前年度からの変化を矢印などで表していただきたい。

窪田委員長

アニメーションで表現はできないか。

事務局

前年、5年前など比較するのはいつの時点が適切か。

風間副委員長

前年度からの変化で作成し、変化がないようなら再検討すればどうか。

窪田委員長

見にくくならないのであれば、過去2年分くらいの動きを表せると良いが。5年前からの変化も良い。

事務局

それを提示できるような形にしていけたら。アニメーションへの対応は難しい。

窪田委員長

画像をスライドショーみたいになれば動いているように見えると思うが。もし、余力があれば御検討いただきたい。

先ほども申し上げたが、評価が悪い、あるいは悪い評価が続いている政策・施策については、原因調査をした方が良い。この政策評価制度の枠組み、費用を掛けないで追加調査をできないかという問題意識がある。

例えば大学コンソーシアムで、若手研究者に「平成の京町家は、なぜ浸透しないのか。」などのテーマを出して研究してもらうとか、学生に研究を依頼するという手段もある。

事務事業サポーター制度のように、特定の教員とゼミという単位で調査をしてもらったり、あるいは学まちコラボのように学生に課題を示して、調査してもらおうという方法もある。

事務局

そういう意味では、評価の良い政策・施策も大事だが、やはり評価の悪い政策・施策をもっと深掘りして考えていくべきか。

窪田委員長

イメージは以前配布させていただいた「政策評価のぐるり」である。どちらかというと、悪い評価が続いている政策・施策の深掘りが優先である。

風間副委員長

事務事業評価のサポーター制度の良いところは、指標を学生が評価するという点。その指標が良いか、こういう指標が良いのではないかを提案するのが重要なミッションになっている。第三者の視点が入ってくるのが良い。政策レベルでは、学生に相当な知識がないと難しいが。

窪田委員長

そのとおりである。学生に政策評価をさせるというよりは、政策評価を通じて出てきた疑問について、テーマを出して調査させるというイメージ。他に御意見はあるか。

菅原委員

市民生活実感調査の集計データを大学で分析をしていただくのは、ありがたいが、市に利用した結果をキックバックしてもらえそうな仕組みは考えているか。

事務局

どういう分析をされたか返していただき、それを公開して他の方の研究にも広がっていけば良いと考えている。

窪田委員長

例えば、集計データを使用したら、使用したことを明示し、京都市に論文を送ってほしい旨ホームページに掲載するのが費用を掛けずにできそうである。

風間副委員長

日本で最も大きな規模である日本学生政策会議では、経済学系のゼミがたくさん参加しており、データ分析のうえ、問題を抽出し、政策を提言するというスタイルで活動している。

経済学系のゼミの学生たちにデータを提供すると、様々なデータ処理より一見関連がなさそうなところに、相関を見つけてくるなど、興味深いものがある。

京都の大学もたくさん参加しているので、市民生活実感調査の集計データがあることを教えれば、学生たちは飛びつくと思う。

窪田委員長

周知方法としては、ホームページで広報すると費用は掛からない。また、各大学の企画係にお願いし、各学部の教授会に定期的に周知すれば徐々に浸透してくるのではないか。メールを送付し、全教員に転送してもらう方法もある。

事務局

京都市もオープンデータ化を検討しており、市民生活実感調査以外にも様々なデータがあるので、有効に活用していただきたい。

(5) その他について

窪田委員長

議事5「その他」について事務局から説明をお願いする。

事務局

【後期実施計画（骨子）について説明】

窪田委員長

その他、何か御質問や御意見等はあるか。

山田委員

政策の評価が評価票に直接的に表れるとは限らないので、様々なバックデータが参考資料としてあると良いと思う。また、評価を実施した結果、今後どのように取り組んで行くかが見えれば良い。

「政策評価のぐるり」を市民生活実感調査の調査票に同封していただき

たい。

窪田委員長

バックデータについては、行政からすると各局がどういうものを出せば良いか悩まれるかもしれない。手間と情報の正確さのバランスを取らなければならないが、もう少し努力をして欲しいというのは分かるので、次回以降に例えばこんな資料をこういう形で欲しいというような意見もいただければと思う。

3 閉会

事務局

本日は貴重な御意見提案いただき感謝申し上げます。

次回の委員会は、28年度評価の実施に向けて、評価制度の改善と市民生活実感調査の実施内容について御審議いただきたい。本日はこれで閉会させていただきます。